

第 1 学年 音楽科学習指導案

1 題材名 (教材名)

いろいろなおとにしたしもう～星語に合う音をつくって表現しよう～ (全 4 時間)

(教材名)「きらきらぼし」(歌唱)
「おとあそび」(音楽づくり)

2 題材の目標

- 楽器の音色や音の出し方を工夫して、表したい星の様子に合う音をつくって表現することができる。
- 歌詞の表す情景を想像しながら、表情豊かに歌うことができる。

3 児童の実態と指導の構想

(1) 児童の実態

これまでに児童は、「しろくまのジェンカ」「ぶん ぶん ぶん」などで、拍の流れにのってリズムを打ったり、「なまえあそび」「ことばあそび」で、友達と楽しくリズムリレーをしたりするなどのリズム遊びを経験してきている。特に、拍の流れにのりながら、「たん」や「たた」を使って、言葉に合うリズムを即興的につくって表現する学習は、現在も継続的に行っている。

また、歌唱表現においては、「かたつむり」や「ひらいたひらいた」「うみ」で、歌詞の内容を理解したり、歌詞の表す様子や気持ちを想像したりして、身体表現しながら歌う学習をしてきている。学習を重ねるごとに、歌詞の表す様子に合うように歌い方を工夫し、思いをもって歌う姿が見られるようになってきた。しかしまだ、感じ取ったことを楽器を使って表現する学習経験はない。

そこで、「きらきらぼし」の歌詞から星の様子を想像させ、表したい感じに合うように、楽器や奏法を選択・工夫させて表現させる本題材を設定した。この題材を通して、「きらきらぼし」を表情豊かに歌唱表現する力を、児童に身に付けさせる。

(2) 指導の構想

上記「(1) 児童の実態」を受け、「今年度の授業研究の重点」と関連させ、次のような手だてを講じて学習を進める。

ア 指導と評価の一体化を図る。

- 指導のねらい、教材の特徴、学習活動等を考慮して、学習状況を適切に評価することのできる評価規準を設定する。その際の評価方法を工夫する。

本題材と学習指導要領「A 表現」とのかかわりを次のようにとらえた。

歌唱
ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。

○	イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり，楽曲の気分を感じ取ったりし，思いをもって歌うこと。
	ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
	エ 互いの歌声や伴奏を聴いて，声を合わせて歌うこと。
音楽づくり	
○	ア 声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。
	イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら，音楽の仕組みを生かし，思いをもって簡単な音楽をつくること。

本題材では，いろいろな楽器の音色や奏法を選択・工夫しながら音遊びをし，星の様子に合う音をつくって表現する活動を通して，「きらきらぼし」の歌唱表現をより豊かにすることをねらう。

このねらいを達成するために，歌唱と音楽づくりの活動を意図的に関連付けて指導し，指導と評価の整合性を図りながら進める。指導に役立つ評価ができるように，ワークシート等を活用する。ワークシートの記述等で子どもの学習状況をA・B・Cで評価し，個々の学習状況に応じた指導ができるようにする（4 評価規準を参照）。

イ [共通事項] の位置付けを明確にした題材構成とする。

- 共通事項を明確にし，教材「きらきらぼし」を特徴づけている要素の働きに自ら気付くような題材構成をする。

本題材は，教材「きらきらぼし」を核にして，星の様子をオノマトペで表現したり，そのオノマトペ（以下「星語」と記す）をさらに楽器で表現したりすることで，歌詞の表す情景を想像しながら表情豊かに歌うことを主なねらいとしている。

このねらいを達成するためにまず，星語をどのように表現するかを児童に考えさせる。次に，どんな楽器の音色で，どのように演奏すると表したい星語の感じになるかを児童に考えさせ，それを手掛かりにしながら思いに合った音をつくっていくように促していく。

本題材での「音色」とは，声や音の感じ，そして音の出し方を含むものである。したがって，歌詞の表す情景を想像しながら表情豊かに歌唱表現するというねらいに即して，音遊びにおいても歌唱表現においても，[共通事項]を次の要素に絞って指導する。

[共通事項] ア (ア) 音色

ウ 音楽科に即した言語活動の充実を図る。

- 想像したことや感じ取ったことを音や言葉で表し，それを伝え合わせる活動を取り入れる。音楽の要素に着目した音づくりをさせる。

本題材ではまず，歌のイメージをより明確にもたせるために，「きらきらぼし」の歌唱表現の合間に星語を入れさせる。星語は，歌詞の内容や思い浮かべた情景を手掛かりにして，児童に自由に考えさせる。児童は，「キラキラ」「ピカッ」「ヒューン」などのたくさんの星語を使って自分の表した

い感じを表現する。それを互いに交流させることで、児童は自分の星語のイメージを広げたり深めたりしていく（言語活動の充実）。

次に、星語に合うように楽器で表現させる。その際、「星語を楽器で表そう」と指示するだけでは、音楽の要素に着目した音づくりにはならないので、次の手順を進める。

- ① 「星語クイズ」（教師による楽器の音色や奏法に関するクイズ）を通して、楽器の音色や奏法と自分の考えた星語との結び付きを考えさせる。
- ② ワークシートを活用し、聴き取り感じ取ったことを、互いに言葉や音で伝え合わせる（言語活動の充実）。

こうすることで、児童は楽器の音色や奏法の違いに気付き、どんな楽器でどのように演奏すると星語に合った表現になるか、音づくりに対する自分なりの考えをもつことができる。

4 題材の評価規準

(1) 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評価規準	① 「きらきらぼし」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。	① 「おとあそび」で、楽器の音色や音の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら音遊びを工夫し、どのように音をつくるかについて思いをもっている。	① 声や身の回りの音の様々な特徴に気付き、それを生かして音遊びをしている。 ② 「きらきらぼし」を歌詞の表す情景や気持ち、楽曲に合った表現で歌っている。

(2) 学習活動における評価規準

次ページ

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
学習活動における 具体的評価規準	1時	① 「きらきらぼし」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。	
	<p>評価結果への対応</p> <p>Cと判断される状況（「きらきらぼし」の歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりすることができず、思いをもって歌う学習に進んで取り組むことができない児童）への働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星がイメージできるように、画像を用意する。 ・ワークシートに記述する活動を取り入れ、友達の発言からイメージを膨らませて記述できるように支援する。 <p>Aと判断する場合の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>ワークシートの記述に、歌詞の表す情景の言葉が2つ以上入っている。 <input type="checkbox"/>身体表現を入れながら、歌う様子が見られる。 		
	2時	① 「おとあそび」で、楽器の音色や音の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら音遊びを工夫し、どのように音をつくるかについて思いをもっている。	
<p>評価結果への対応</p> <p>Cと判断される状況（星のイメージから星語（擬音語）にすることができない児童）への働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉学習でどのような星語が考えられるかを友達の発言から理解し、それをもとに自分の考えを書くように支援する。 <p>Aと判断する場合の具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>星のイメージと星語の組み合わせが、2つ以上記述されている。 <input type="checkbox"/>星のイメージと星語が、合っている。 			
3時（本時）			① 声や身の回りの音の様々な特徴に気付き、それを生かして音遊びをしている。
<p>評価結果への対応 ※「6本時の展開（3）展開」に示す。</p>			

4 時		<p>② 「きらきらぼし」を，歌詞の表す情景や気持ち，楽曲に合った表現で歌っている。</p>
<p>評価結果への対応</p> <p>Cと判断される状況（「きらきらぼし」を，歌詞の表す情景や気持ち，楽曲に合った表現で歌うことができない児童）への働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を，ワークシートや掲示などをもとに振り返らせる。 <p>Aと判断する場合の具体例</p> <p><input type="checkbox"/>前時までの学習を生かして歌っていること，そして，星語にあった楽器の演奏方法をしていることのどちらも満たしている。</p>		

5 学習の指導計画・評価計画（全4時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準及び評価方法
1		◎ 星の様子に合う音をつかって歌唱表現に取り入れながら，歌詞の表す情景に合うように工夫して「きらきらぼし」を歌うことができる。	
	1	○ 「きらきらぼし」の歌詞の内容を理解したり，様子を思い浮かべたりしながら歌う。 ・星が光っている様子を思い浮かべて歌う。 ・歌詞から星空のイメージを膨らませて，身体表現を入れながら歌う。 ・手拍子を入れて歌う。	関一① 演奏の聴取
	2	○ 「きらきらぼし」の歌に合わせて，星の様子を表す言葉（星語）を入れて表現する。 ・いろいろな星を思い浮かべて，星の様子を表す言葉を考える。 ・同じ言葉でも声の出し方や音量の違いで違う星になってきこえることを聴き合って確認する。 ・好きな星語を選ぶ。	創一① 発言の内容 ワークシートの記述
3 本 時		○ 「星語クイズ」から，楽器の音色や音の出し方の特徴を聴き取る。 ・星語クイズ（教師による楽器の音色や奏法に関するクイズ）を聴いて，楽器の音色や音の出し方の特徴を聴き取る。 ○ 好きな星語の様子を楽器を使って表現する。 ・前時に選んだ星語の様子に合うように，楽器の音色や音の出し方を工夫しながら音遊びをする。 ・つくった音を聴き合って，様子に合った音になるように練り上げる。	技一① 演奏の聴取 ワークシートの記述

4	○ 星の様子に合う音を使い、歌詞の表す情景に合うように歌う。 ・前時でつくった音を歌唱表現に工夫して取り入れながら、「きらきらぼし」の情景に合う表現で歌う。	技一② 演奏の聴取
---	---	--------------

6 本時の展開（3／4時）

（1）ねらい

「星語クイズ」を通して、楽器の音色や音の出し方の特徴に気付き、それを生かしてお気に入りの星語を楽器で表すことができる。

（2）本時の構想

本時は、前時に考えた星語を楽器の音で表す活動を行う。音遊びをすることが初めての児童が、スムーズに楽しみながら活動できるように、次のような働き掛けを行う。

○ ワークシートを工夫する

自分の見付けた音を覚えておくことは難しい。そこで、ワークシートを用意し、自分の見付けた音が消えてしまわないように書きとめておくようにする。

また、自分の見付けた音を友達に聴いてもらい、<きいてね欄>にチェックしてもらうことにより、自分の考えに自信をもつことができるとともに、集中して聴き合う姿が期待できる。また、自分の見付けた音を書く欄を2つ設けることで、早くできた児童は、さらに音づくりを進めていけるようにする。

このワークシートを活用した活動では、記述内容から個々の学習状況を A・B・C で評価する。そして、状況に合わせた指導を行い、一人ひとりにあった音遊びの充実を図る。

○ 使用する楽器を限定する

今回使用する楽器は、タンブリン、すず、トライアングルの3つの楽器に限定する。この3つの楽器は、金属でできている楽器なので、星の音を表すのに適している。たくさんの楽器から選ぶことになると、児童は星語と楽器の音色の関係より、自分の興味がある楽器を選んでしまいやすい。ある程度楽器に限定をかけることで、星語と楽器の音色、奏法へのこだわりを引き出すことができると考える。また、トーンチャイムや鉄琴などの楽器は、音の高低があり、奏法にこだわって音遊びをする今回の学習には向かないと考えるので、選択肢に入れないことにする。

○ 星語と音をつなぐ手段としてクイズを使う

星語を音に表現するとき、児童は楽器の①音色②奏法の2つの点を考えて音づくりをする。このことを自分で考えていくことは低学年の児童にとって難しい。そこで、教師の選んだ星語を楽器の①音色②奏法の観点で、全体で考え確認することで、それぞれの楽器の特徴や、奏法の違いで音色が変わることを共有でき、いろいろな工夫ができそうだという見通しをもつことができると考える。

(3) 展開 (3 / 4時)

○学習活動	◆教師の働き掛け ◇評価規準<評価方法> C 児童の反応
○導入 (5分) 星語を入れながら「きらきらぼし」を歌う。	◆「きらきらぼし」を歌いましょう。(1回) ・6人に星語を選ばせる。 ・それをフレーズの間に入れてみんなで歌うようにさせる。
○ 星語クイズを通して、楽器の音色と奏法を聴き取り感じ取る。 (10分)	◆今日は、みんなのお気に入りの星語を、楽器で表してみよう。 お気に入りの星語を楽器で表しましょう。 今日使う楽器はこれ!→すず、トライアングル、タンブリンを使うことを伝える。 C: 早く使いたいな。 C: 前に使ったことがあるから、音の出し方がわかるよ。 ◆先生のお気に入りの星語は、「キラキラ」です。では、どんな音が合うか考えてみましょう。 〈第1問〉楽器の音色の違い(必ず正しい持ち方で) ①すず【手首をたたく】 ②トライアングル【クローズで鳴らす】 ③タンブリン【振る】 ・児童に、どれが「キラキラ」にきこえたか、そして、どうしてそう思ったかを問う。 ・楽器の違いで、様々な音がすることを共有する。 C: タンブリンが高い音だったから、一番あうかな。 C: トライアングルは、ひびかないからキラキラにきこえない。 〈第2問〉奏法の違い(すべてトライアングルで) ①【ひびかせて】 ②【こまかく】 ③【クローズで】 ・同じ楽器でも様々な音がすることを共有する。 C: ②番が細かい音がして、キラキラにきこえるよ。 C: 同じトライアングルだけれど、たたき方を変えると星空の様子にぴったりの音になるなあ。 ・ワークシート3の書き方を確認する。
○ 自分のお気に入りの星語を楽器で表す。 (15分)	◆自分のお気に入りの星語を楽器で表してみよう。 ・教室の3か所に<トライアングルコーナー><すずコーナー><タンブリンコーナー>を設け、使いたい楽器の場所に行って試させる。 ◆どんな音をつかったか、ここで少し聴いてみましょう。 ・何人かの友達をつかった音を聴き、星語と音のかかわりを確認する。

	<p>◆お星さまに合った音かどうか、いろいろな友達と聴き合みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <きいてねコーナー>で、つくった音を友達に聴いてもらい、ワークシートにチェックをしてもらうようにさせる。 ・ 友達のアドバイスを生かし、さらに思いに合った音をつくるように促す。 <p>C：私の星語の音、きいてね。</p> <p>C：星語の感じが出ていていいね。</p> <p>C：もっとはやくたたくといいんじゃない。</p> <p>◇自分のお気に入りの星語を、楽器を使って表現している。</p> <p>技－①声や身の回りの音の様々な特徴に気付き、それを生かして音遊びをしている。〈演奏の聴取，ワークシートの記述〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Cと判断される状況（ワークシートの記述がない）への働き掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 星語クイズを想起させながら，楽器の音色と奏法を選ばせる。 ・ 同じような星語を選んだ友達と一緒に楽器コーナーに行かせる。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>Aと判断する場合の具体例</p> <p><input type="checkbox"/> 強弱などの奏法にかかわる工夫が見られる。</p> </div>
<p>○ つくった音をみんなでリレー奏する。 (10分)</p>	<p>◆お気に入りのお星さまの音ができ上がりましたね。それでは、みんなでお星さまになって演奏してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 円になって、リレー奏させる。 <p>C：みんな、いろいろな星語の音ができたね。</p> <p>C：きれいな音で、星空の様子が思い浮かぶな。</p> <p>◆○○さんの音は、どんな星語か考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏を聴きながら、どんな星語を音にしたのか確認する。 <p>C：□□にきこえたよ。</p> <p>C：私は△△にきこえた。</p>
<p>○ まとめ (5分)</p>	<p>◆今日の学習のまとめをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器の音色と奏法を工夫することで、表したい星の感じを表現することができることを共有する。 <p>C：楽器と鳴らし方を工夫すると、自分の表したい星の感じを出せるんだね。</p> <p>◆今日の学習を振り返りましょう。あてはまるところに○をつけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の学習の振り返り（自己評価）をさせる。 <p>C：楽しくできたよ。</p> <p>C：いい星語の音ができうれしかったな。</p>

